

サイコロン21

2025.10 SAIKORO CULB

CONTENTS

- ▶ TRPG ってなあに？
- ▶ サイコロ倶楽部年間活動報告
- ▶ エモクロア TRPG リプレイ
- ▶ あとがき

▶ TRPG ってなあに？

TRPG とは、Table talk Roll Playing Game

「楽しく喋りながら、役割を演じるゲーム」のことです！

ゲームで遊ぶ人たち「プレイヤー」は、架空世界の住人である「キャラクター」を演じ、司会進行役である「ゲームマスター」と共に、その物語がより良いもの、素敵なものとなるように行動していきます。有名なドラゴンクエストやファイナルファンタジーといったコンピューターRPGとは異なり、TRPGには決まったストーリーはありません。ゲームマスターが用意した物語のあらすじ「シナリオ」があるだけで、その他の内容は、プレイヤーとゲームマスターが即興の会話で作り上げていきます。用意したシナリオが同じでも、遊ぶプレイヤーが違えばそれは全く違った物語となるのです。

遊び手の想像力次第で、無限に広がる物語。それが TRPG の最大の魅力です。

▷ TRPG 基本用語

PL…プレイヤー。ゲームを遊ぶ人のことです。

GM…ゲームマスター。ゲームのシナリオを作り、司会進行をする人のことです。

PC…プレイヤーキャラクター。PL がゲーム内で演じる役のことです。

NPC…ノンプレイヤーキャラクター。GM が演じる、PC 出ない役のことです。

ダイス…サイコロのことです。3D6 や 1D100 のように（振るサイコロの個数）D（サイコロ一つの面の数）で表されます。

判定…ゲームの中の PC の行為が成功するか、サイコロを使って決めることです。PC の能力値＋サイコロの出目が GM の設定した数値を上回れば成功です。

達成値…判定の際に出た数値です。いかに上手く行為が出来たかを表します。

クリティカル…特別な出目（エモクロア TRPG では 1）の時、その行動は必ず成功となります。結果にボーナスが発生する時もあり、行動を有利に進められます。

ファンブル…特別な出目（エモクロア TRPG では 10）の時、その行動は必ず失敗となります。時にペナルティが発生してしまうことも…！？

▶ サイコロ倶楽部年間活動報告

年間活動スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会・体験会	新入生向け説明	自主活動	学園準備	◎春正規活動	学園祭準備	◎学園祭		自主活動	◎秋正規活動	自主活動	自主活動

サイコロ倶楽部では以上のような活動を行い、ゲームを楽しみながら交流を深めています。春・秋の正規活動では、例年長編ストーリーの TRPG をプレイしていて、近年はオンラインでのプレイが多くなっています。GM や PC が工夫を凝らし、笑いと感動に満ちた楽しいゲームが作られています。

次からは、2025年春の正規活動のリプレイを載せています。

▷ リプレイとは？

リプレイとは、実際に行ったセッションを収録し書き起こして、読み物の形式にまとめたものです。

「TRPG ってなんだか面白そうだけど、実際はどんな感じなんだろう？」というあなたに、楽しさが少しでも伝われば幸いです。

●emotional＋Folklore-エモクロア TRPG プレイ

「春を待つ」

GM：ここん

■ エモクロア TRPG とは？

エモーショナル（感情）＋フォークロア（伝承の存在）…エモクロア。

私たちの暮らす現実とよく似た、もう一つの世界。

超常的存在、【怪異】たちが人々のそばに存在する世界が舞台となる。

■ あらすじ

四限の授業が終わった。あなた達はラウンジに集まり、課題や就活の資料を広げる。それは難航し、日暮れまであなた達は頭を抱え続けた。 そんな中、とある少女が現れる。身長 30 センチほどの少女はあなた達にこう頼んだ。「大事な髪飾りを探して欲しい」

■ キャラクター紹介

天童 翔 19 歳 P L：KAKAO

共鳴感情 表：スリル（欲望） 裏：憧憬（理想） ルーツ：幸福（情念）

スクープクラブ所属の大学一年生。逃げることに追いかけることが大好きな鬼ごっこジャンキー。

クラブに入った理由は、勧誘した部長の運動力をべた褒めされ、流れで入った。

夢は逃走中のハンターでテレビ出演すること。

塚森 銀樹 19 歳 P L : あるみかん

共鳴感情 表：スリル（欲望） 裏：嫌悪（情念） ルーツ：支配（関係）

スクープクラブ所属の大学一年生。黒上に白髪が混ざっているのが特徴。
直感で動く性格で、くじなど直感でできる遊びが好き。人当たりがよく、人との
仲を縮めるのが得意。
義務や、強制されることに苦手意識をもっている。

彩野 絵理 19 歳 P L : いますがり

共鳴感情 表：向上（理想） 裏：不安（情念） ルーツ：愛（関係）

スクープクラブに所属する大学一年生。基本穏やかで平和主義、一人であれば着物座った行動もできるが、周りに人が居ると流される一面も。
幼少期より絵を描くことに強い興味をもち、小中高校を通して数々のコンクールを受賞している。
一方で絵を描くことばかりを褒められ育ったため、描けなくなることをとても恐れている。

■ シナリオ作成

ここん、暁、amaohi

『エモクロア TRPG』

企画・制作：ダイス・タスチーム

<https://emoklore.dicetous>.

GM／えー、それではエモクロアTRPG「春を待つ」開始していこうと思います。よろしく願います。

いますがり・あるみかん・KAKAO／よろしく願います。

GM／では、えー、皆さんのキャラクターのお名前と簡単な自己紹介を……後、プレイヤー名だね。じゃあ、プレイヤー名、キャラクター名、キャラクター自己紹介の三つをお願いします。イニシアチブ順、まあ行動順なので、彩野さんから願います。

いますがり／はい。えー、キャラ名、彩野絵理を演じます、いますがりと申します。

えー、絵理ちゃん絵が好きな女の子で、特に生まれとかは普通の感じで、とにかく絵が大好きで……後、瞬間記憶能力的な場面をちゃんと覚えられるっていうあの、強いっていうか、凄い能力を持つてる普通の女の子です。以上です。よろしく願います。

あるみかん・KAKAO／願います。

GM／はい。じゃあ、次……。

あるみかん／はい。塚森銀樹を演じます、あるみかんです。で、銀樹のあれだよ、銀樹

の性格は直感で動く人間です。くじとか直感で出来るものが好きで、強制とか義務やそれを押し付けてくる人が嫌いなタイプの人間です。願います。

いますがり・KAKAO／願います。

GM／はい。じゃあ、最後願います。

KAKAO／はい。えー、天童翔を演じます、KAKAOです。天童翔のキャラ性格は運動バカです。

いますがり・あるみかん／（笑）

KAKAO／とにかく遊ぶこと、走ることが大好きで、一番好きなのは鬼ごっこです。

あるみかん／かわいい（笑）

KAKAO／なんでこの部活、じゃない、スクープクラブ入ったかという、部長に褒められて、おだてられて、えー、流れて入りました。アホの子です。よろしく願います。

いますがり・あるみかん／願います。

GM／はい、では、ということでシナリオ始めて行こうと思います。

GM／四限の終わりのチャイムが鳴っている。教室を出る人たちは、駅直結のバスが出る

るバス停、次の授業の教室、図書室など様々な場所に向かっています。貴方達は今日、自分たちが済ませなくてはいけない課題や用事の為に集まることになっていました。作業のおともを購入する為に、皆売店に集まるでしょう。到着するのはイニシアチブ順です。ということでロールプレイをお願いします。会話だね。

彩野 絵理／何を買おっかな？ 折角だしスイーツとか、なんか脳の栄養にでも甘いものが食べたいかもしれない。後は、皆が好きなポテチかな。

塚森 銀樹／一番くじとか売ってないかな？ あと、何買っようかな？ っと、軽食と、飲み物買っようか。

天童 翔／なーに買おっかな？

GM／はい。そんな感じで貴方達は売店に到着します。売店についてです。閉店は十七時三十分。お菓子、弁当、文房具、雑誌などを販売しています。売店は後、十五分程で閉店してしまうようです。どんなものを買いますか？

天童 翔／やっべ！ って言いながらスポ

ドリと……後、惣菜パンを握ってレジに行きます。

彩野 絵理／私は……とりあえずなんか生チョコクレープ的な甘いものと、皆が食べそうなポテチを持って買います。

塚森 銀樹／じゃあ、売店なんが一番くじがないことに気づいたので、えっと、軽食用のおにぎりと飲み物と後、星形を求めてピノを買ってレジに行きます。

GM／いいですね。えー、貴方達が買い物を終え、外に出るとそれが早いか扉が閉じられてしまいます。

天童 翔／えっ。

塚森 銀樹／ぎりぎりやんけ。

彩野 絵理／えー。

GM／貴方達は、そうですね、売店の横にあるラウンジとかに移動すると良いんじゃないかな？

彩野 絵理／じゃあ、しようがないからここでやる？

塚森 銀樹／そうだなあ。

天童 翔／扉開かねえ……。

塚森 銀樹／（笑）

彩野 絵理／（笑）

天童 翔／まあしようがないなあ。

彩野 絵理／そんなにねえ、変わんないもんねえ、そこでやつても。作業できればいいから、とりあえずあそこ行こっか。

塚森 銀樹／そうだな。

天童 翔／それもそっかあ。

GM／はい。ということでラウンジに入ります。生徒たちの憩いの場です。充電スペースやソファが設けられており、先程までいた小さな売店といくつかの自販機が備わっています。大きな窓から夕陽が差し込んでいます。手前は四人用の小さなテーブルがいくつか置いてあり、奥には三人掛けのソファと低いテーブルがあります。更に奥には充電が可能なカウンター席もあるでしょう。他の人はおらず好きな席を使うことができます。

彩野 絵理／どこ座ろっか？ ちよつと奥のテーブル、椅子とか低くて使いにくそうだからそこ以外がいいなあ。皆どこがいい？

天童 翔／俺今日の講義でパソコンの充電切れちまつてんだよな。できれば充電できる席がいい。

塚森 銀樹／充電できる席つつうと、あそこ左端の席かな？

彩野 絵理／ほんとだ。コンセントある。んー、向かい合つては出来ないけど……いっかあ。とりあえず座ろっか。

天童 翔／悪いね。

彩野 絵理／しようがないからねえ。モバ充持ってこないとね。

塚森 銀樹／いやあ、家に忘れちまつて……ほんますんません。……座ります。

GM／えー、席に着き貴方達は自分のパソコンや資料などを机に広げます。どんなことをやりますか？

彩野 絵理／とりあえず最初……どうしようか？ こないだ考えてた、そうだ、そういうえばサークルでほら、新しい新聞作るって言うて取材お願いしたでしょう？

ほら、神社の氏神様のやつ。あれ今どうなってる？

天童 翔／ああ……、えーつとお……。

塚森 銀樹／ああ……、あの禿げた爺ちゃんのとこな。翔と一緒に رفتんだよな。

天童 翔／禿げたは余計じゃないかな……

？

塚森 銀樹／悪い悪い（笑）。翔に資料預けたと思っただけで、翔持つてるか？

天童 翔／……ちよつと待つてくれよ。今、ちよつと探すからな。て言つてガサゴソとカバンの中をあさります。えーつと、あるかどうか調べたいのでダイス降つてもいいですか？

GM／いいですよ。じゃあ、【強運】でどうぞ。

天童 翔／（ころころ）出目が8、【強運】の判定値5、成功数0失敗

GM／失敗ですねえ。なんとじゃあ、一部あの、資料が欠けているけど、まあ、あるつちやあるみたいですね。

天童 翔／あつ……たけど量が少ない……。

塚森 銀樹／量が少ない……（笑）

彩野 絵理／ええー、量が……。

天童 翔／ごめん、なんか一部家に忘れてきちゃった。すまん！

彩野 絵理／ええ……だつて今、大学でオカルトブームやつてるのに、これ以上遅れたら皆読む人いなくなっちゃうよ……。

塚森 銀樹／まあ、記憶で補完しつつ作業進めるしかないなあ。

天童 翔／ホント、スイマセン。

彩野 絵理／私行つてないから、二人で頑張つて思い出して。

天童 翔／あぁーつ……！

塚森 銀樹／あぁー……預けた俺の責任もある。何かダイスであるかな、振れるの？

GM／まあまあでも、皆で取材に行ったのなら判定を行わずとも思い出すんじゃないですかね。

塚森 銀樹／翔と銀樹の二人で行きました。

二人の記憶をつなぎ合わせれば……。

GM／じゃあ、銀樹は大体のことは覚えてるんじゃないかな。

塚森 銀樹／よしよし、良かった。

天童 翔／バカじゃないから（ボソツ）

GM／（笑）

彩野 絵理／じゃあ、二人が話してくれるのを私がまとめるから、とりあえず話して。

塚森 銀樹／はい。

天童 翔／えー、何だったっけ？ なんかあそこの爺ちゃんスッゲー嬉しそうに話し

てたよね。人が中々来ないからって。

塚森 銀樹／そうだな。すっごい盛り上がりてちよつとよさげなお茶菓子を出してもらつてしまった。

天童 翔／そうそうそう、あれ超美味かった。

塚森 銀樹／あれ、どこで売つてんだろうな？

彩野 絵理／超優しいお爺さんじゃん。行けばよかったかなー。でも、あんな山の上まで行つてらんないし。

塚森 銀樹／でも、景色綺麗だったから、絵とかにもちようど良かったかも知れない。

天童 翔／あつ！ ちよつと待て、待つてろよ。あつ、スマホにほら夕陽！ ほら、これ写真！ って言つてスマホに撮つた写真送ります。

塚森 銀樹／おつ、凄い！

彩野 絵理／おぉー！

GM／そんな感じであなたたちは談笑しながらお菓子片手に作業をするでしょう。

塚森 銀樹／やべつ、ピノ溶ける！

GM／はい、それでは皆さん、【聞き耳】を振ってください。

塚森 銀樹／はい。

天童 翔・彩野 絵理／はい。

GM／【聞き耳】にレベルがなかったら【知覚】で振ってください。

彩野 絵理・塚森 銀樹／えっと、どうやってやるんだっけ？

GM／みんな【聞き耳】で振れるね。みんな【聞き耳】だね。

天童 翔／出目が6、判定値7、成功数1、成功。

塚森 銀樹／はい、送信。出目が2、判定値7、成功数1、成功。あ、すごい。

彩野 絵理／ちよっとお待ちください。

GM／はい大丈夫だよ。オッケーです。

彩野 絵理／出目が9、判定値7、成功数0、失敗。

GM／はい、オッケーです。成功した翔と銀樹ですね。は、小さな声ではあるが、「おい」という声を聞き取ることが出来ます。

塚森 銀樹／あれ、今なんか聞こえなかったか？

彩野 絵理／ん？

天童 翔／ん？ なんか……。

彩野 絵理／何も聞こえなかったけど。

塚森 銀樹／え、あれ？ 翔は聞こえたよな？

天童 翔／おう、聞こえた。聞こえた。聞こえた。

塚森 銀樹／幻聴じゃないか。

彩野 絵理／何もしてなかったよ？

塚森 銀樹／なんか人の声みたいなの？

天童 翔／声の聞こえた方をキヨロキヨロ見回しています。

彩野 絵理／誰もいないし。どんな声だった？

GM／はい、では翔と銀樹は【観察眼】を振ってください。

天童 翔／はい。

塚森 銀樹／【観察眼】。出目が7、判定値7、成功数1成功。

天童 翔／【観察眼】……これか。出目が6、判定値7、成功数1成功。

GM／はい、では2人ともその声の持ち主を見つけることができるでしょう。翔と銀樹の

視線は机の少し奥の方に注がれます。そこには体長30センチメートルほどの小さな女の子がいました。袴を身に着けており、栗色の髪を耳の上でハーフアップにしてリボンの髪飾りをつけています。2人とその少女の視線が合うと少女は嬉しそうに飛び跳ねてこちらへ駆け寄ってきました。

GM／（ハルカ）「私、ハルカと申します。皆さま難しい顔をしていらしたから気になってしまったの」と話しかけてくるでしょう。

塚森 銀樹／お、親指姫！

天童 翔／妖精がいた！

彩野 絵理／何？うるさい。ちよっとめっちゃ良い景色が……。

塚森 銀樹／彩野、彩野！ 机の下、机の下！ 死角になっているところ！

彩野 絵理／ちよっと待って？ 今すぐく

良いところなの。めっちゃ良い感じに描けているの！

塚森 銀樹／いやいや。

天童 翔／いいから見ろって見ろ。

彩野 絵理／絶対虫かなんかでしょ。絶対見ない。

塚森 銀樹／でかいでかいでかい。虫よりでかい。

彩野 絵理／やだやだやだ。そんなのやだ。でかいならもつと無理。

塚森 銀樹／すごい可愛いぞ、可愛い。

彩野 絵理／え。

天童 翔／可愛い女の子。

彩野 絵理／え。ちらい。

GM／そうですね。そう言われて彩野も机の上に少女がいるのを発見します。

彩野 絵理／誰？

塚森 銀樹／ハルカちゃんだ。

天童 翔／ハルカちゃんらしい。

彩野 絵理／は、ハルカちゃん。

天童 翔／今名乗ってたぞ。

塚森 銀樹／はるかちゃん。

彩野 絵理／は、ハルカちゃん。ちよつと待って、なんでこんなに小さいの？

天童 翔／それは知らん。

塚森 銀樹／親指姫なんだろ。

天童 翔／50センチの親指姫。

塚森 銀樹／（笑）

天童 翔／ちよつと大きいか。

塚森 銀樹／1分の10スケールだ。

彩野 絵理／は、はじめまして？

GM／（ハルカ）「はじめまして」と流暢に返してきますね。

彩野 絵理／待って、待って待って。夢？

GM／（ハルカ）あら、夢なんて失礼なこと。

彩野 絵理／ごめんなさい、それはごめんなさい。」

GM／それでは3人のどなたか情報通とか持ってたりますか？

彩野 絵理／情報通？

塚森 銀樹／情報だったけな。なんかそれっぽいのは多分。

GM／【事情通】かな？【事情通】的なものを持つてるかな？

天童 翔／【事情通】……。

塚森 銀樹／多分こいつは持っていない。

天童 翔／見たことある気がするぞ。

GM／持っていないかな？

天童 翔／今日は持っていないです。

塚森 銀樹／持っていないな。【事情通】は。

GM／持っていないね

GM／あなたたちが覗き込んだりお互いに

話し合ったりしていると、ハルカがパンと手を叩きます。「あなたたち、少し気分転換をした方がいいわ。わたしと遊びましょう」

彩野 絵理／遊ぶ？

塚森 銀樹／うん……。

彩野 絵理／何をして？わたしたち、でもまだやることあるし……。

GM／（ハルカ）「まあまあ！息抜きですから、ねっ？」

天童 翔／いいよ、何やる？

塚森 銀樹／いいんじゃないか。

天童 翔／俺鬼ごっこがいんだけど！

塚森 銀樹／こ、ここで鬼ごっこはちよつと……。

彩野 絵理／もう、遊ぶのは決定なのね、二人の中では。

GM／「もちろんそんな、時間をとらせたりはしませんわ」

彩野 絵理／じゃあ……、何します？

GM／「そうねえ。たとえば、じゃあ折り紙なんてどうかしら？」と言って、あなたたちが先程まで食べていたお菓子の包み紙をハルカが、うんしうんしよと引っ張ってきま

す。

塚森 銀樹／あら可愛らしい。

GM／彩野から順に、【細工】という技能もしくは、もし【細工】をとっていないければ、【器用】という技能を振ってください。

彩野 絵理／はい。(ころころ)出目が1、【細工】の判定値5、成功数2ダブル。

GM／おすごい、ダブルなので、すごくきれいに折れたので。

彩野 絵理／おおー。

塚森 銀樹／さすが彩野。

GM／ハルカが、もうめいっぱいの拍手を絵理に送ってくれるでしょう。

彩野 絵理／いやあーやっぱり、手先は器用だからねえ。

天童 翔／さすがだなあ。

塚森 銀樹／そしたら次は、おれがいいところを……ほっ。(ころころ)出目が3、【細工】の判定値4、成功数1シングル。ま、彩野ほどじゃないが、まあまあまあ。

絵彩 野理／きれいな鶴じゃない？

塚森 銀樹／マツチヨ鶴だぜ。

彩野 絵理／ちよっと……、脚ついてるの気

持ち悪いけど(笑)

天童 翔／おれはすごいと思う(笑)

彩野 絵理／えー……。

塚森 銀樹／やっぱ翔はわかるか。

GM／(ハルカ)「な、ど、どうやったらこんな折れるんですか？」と言って、鶴の脚の下をこう、くぐったりのぞいたりしてますね。

塚森 銀樹／今度教えてあげるよ。

彩野 絵理／わたしはいいかな……。

GM／では最後。

天童 翔／ふふ(笑)いっぱい居た方が面白いのに。(ころころ)出目が7、【細工】の判定値4、成功数0失敗。あ、やっちゃった(笑)

塚森 銀樹／あっ(笑)

彩野 絵理／あっ(笑)

天童 翔／あっ(笑)

GM／えー……(笑)ハルカが、すごく気まぐずそうな顔をして「じよ、上手に、折れてると思いますわ!」と、言ってくれるでしょうね。

天童 翔／なんかすごいシワクチャの、鶴モドキができて、自身満々に「どうだ!」っていう顔したけどその反応にショボンしてし

ます。

塚森 銀樹／あ、脚が四つあるぞ。すごいな。

彩野 絵理／これは……、人のつくる、モノじゃ、ないと思う……。ちよっと、今度教えて、あげよっか。

塚森 銀樹／そうだな。それがいい。

彩野 絵理／今度は折り紙教室だね。

GM／(ハルカ)「ま、まあまあ……あの……あの、じゃ、じゃ、じゃあ、そしたら、じゃあ、じゃんけんなんてどうですか?」と言ってくるでしょうね。

塚森 銀樹／お、いいなあ。

彩野 絵理／じゃんけんかー、あまり何かを決めるとき以外やることないけど……まあ、いいんじゃない? じゃあ、じゃんけんしようぜ(笑)

塚森 銀樹／勝ったらおれの軽食一個あげるよ。

GM／また同様に彩野から、次は【幸運】、または【運勢】という技能を振ってください。
彩野 絵理／はい、振りまーす。からからん。(ころころ)出目が1、【幸運】の判定値6、成功数2ダブル。

GM／ハルカの出す手が見えたのか、もう何も迷わずにチョキを出して勝ちましたね。

塚森 銀樹／一人一回ずつ制なし。おれの軽食がなくなつてゆく。

彩野 絵理／これで、これは、わたしのもの。小さくちぎつてあげるね(笑)

GM／(ハルカ)「じゃあ、次はあなたよ」と言つて、銀樹のことを指さします。

塚森 銀樹／よし。じゃーんけーん。(ころころ)出目が3、【幸運】の判定値6、成功数1成シングル。

GM／まごまごしながらパーを出してなんとか勝てましたね。

塚森 銀樹／勝った。

彩野 絵理／ほとんど後出しじゃなかった？今の。

塚森 銀樹／いや、いやそんなこと、そんなセコいことするわけないだろ。

彩野 絵理／だつて今……。

GM／(ハルカ)「二回も負けちゃった……！」と言つて、ハルカはショックを受けたようにたたずんでいます。

塚森 銀樹／菓子パンを半分ちぎつて横に

置きますね。ハルカちゃんの。

彩野 絵理／何か申し訳なくなつてきた。

GM／(ハルカ)「悔しい……、最後はあなたね」と言つて天童を指さします。

天童 翔／じゃ、いくぞお？じゃーんけーん……(ころころ)出目が5、【幸運】の判定値4、成功数0失敗。

GM／えー、自信満々にグーを出したんですが、ハルカが堂々とパーを出したので負けてしまいました。

天童 翔／ガン！

彩野 絵理／ねえさあ、さっきからさあ、ねえ、弱くない？(笑)

塚森 銀樹／鮮やかなオチすぎる。本当に。

彩野 絵理／でも、ようやくハルカちゃんも勝てたね。

GM／(ハルカ)「やったー！」

塚森 銀樹／ハルカちゃんにピノもあげよう。

GM／(ハルカ)「あ、やーったあ。コレ何ですの？大きいですわ」

塚森 銀樹／あ、そうだ。150センチあれば、行けるはず……。

GM／(ハルカ)「て、手が、手がベタベタになつてきましたわ」

彩野 絵理／ちゃんと小さくしてアーンてあげないとかわいそうじゃん。

塚森 銀樹／わ、悪かったよ。

彩野 絵理／男子つて甲斐性がないんだから。

塚森 銀樹／いやちよつと、アーンはさすがに、照れる。なんというか。

彩野 絵理／ええ？このちっちゃい子に？

塚森 銀樹／あつ、彩野がやればいいだろう？つて言つて、ピノをそのまま渡しますね。

彩野 絵理／じゃあ、しょうがないなあーつてハルカちゃんに、アーンつてします。ちっちゃくして。

天童 翔／横でもものすごくらやましそうに見えます(笑)

GM／ハルカも「アーン」と言つてそれをいただくでしょうね。

塚森 銀樹／なんだかちよつと悔しいので、翔に菓子パンを半分アーンします(笑)はい、アーン。

天童 翔／じゃあ、アーン、バクツ。指まで食べます。

塚森 銀樹／あつ、イテッ！……これはダメージ入りますか？

GM／入らないです(笑)そんな感じで、あなたたちがわちゃわちゃしていると、ハルカが満足そうにこちらを見ていますね。「あなたたち、なんだか晴れやかな顔になったわねえ」

彩野 絵理／そう、かなあ。そーお？

塚森 銀樹／ありがとう、ハルカさん。

彩野 絵理／まあそれはね、ハルカちゃんのおかげねー。

GM／ということであなたたちは、意外とね、心なしかすっきりしていることに気づくでしょう。

GM／【知覚】または【五感】を振ってください。

彩野・塚森・天童／はい。

ダイス／出目が8、【知覚】の判定値5、成功数0、失敗。

彩野 絵理／あつ。

塚森 銀樹／じゃつ、次行きます。

ダイス／出目が8、【知覚】の判定値6、成

功数0、失敗。

塚森 銀樹／あれ。

彩野 絵理／あれ。

ダイス／出目が1、【知覚】の判定値6、成功数2、ダブル。

天童 翔／成功するんだな。

彩野・塚森／おお。

塚森 銀樹／最後の最後に。

彩野 絵理／こんなはずじゃなかったのに。

塚森 銀樹／ふふふ。

GM／そうですね。天童は空がだんだん暗くなってきたことに気が付くでしょう。ふと時計を見ると乗らなければならぬバスの時間が近づいています、そろそろ荷物をまとめないと帰りのバスを逃してしまうでしょう。

塚森 銀樹／あつ、二人ともそろそろバスの時間だぞ。

天童 翔／うわつ、えつ、もうそんな時間か。

彩野 絵理／もう？ まだそんなに遊んでないと思っただけだ……。じゃあ帰る？

塚森 銀樹／そうだ、な！

彩野 絵理／でもハルカちゃんはどうする

の？ 私たち帰ろうかと思うんだけど。

GM／あなたがそう話しかけるとハルカは声を上げます。

GM／（ハルカ）「私の簪がないわ！ お母さまからもらった大切なもののに！」

GM／といってわたたと足元を探し始めます。

塚森・天童／簪？

彩野 絵理／簪かあ。

塚森 銀樹／どんな簪だ？

GM／（ハルカ）赤くて、こうガラス玉が付いていて、軸は金色の、これくらいの大きさの……。と一生懸命伝えてくれますがあなたたちに心当たりはありません。

「お願い！ どうしても大切に、見つけないと不安なの！ お願いだから手伝ってくださいかしら。」

塚森 銀樹／まあまあまあ、探すよな

彩野 絵理／そんなに大切なものなら、もしバス逃しても歩いていけばいいもんね。

塚森・天童／そうだな。

塚森 銀樹／この後特に予定のあるやつがないなら、みんなで探してやろうぜ。

天童 翔／俺はもちろんいいよ。

彩野 絵理／ハルカちゃんにも遊んでもらったし、せっかくだから手伝うよ。

GM／（ハルカ）「あのね、今日は図書館とここしか来てないの、だからそのどこかで落としたのかもしれないわ。」

GM／と話してくれるでしょう。ということであなただちは探索を始めます。ここで情報の開示が挟まれます。探索可能箇所は以下の通りです。外へつながる扉、渡り廊下につながる扉、ラウンジの三つです。

彩野 絵理／じゃあラウンジの外か中なのね。

塚森 銀樹／とりあえず俺はラウンジを探してみようかな。

彩野 絵理／じゃあ私は、渡り廊下の扉らへんを探してみようかな。

天童 翔／二人がそこ行くんだったら俺は扉のほうで。

GM／はい、では彩野から処理をします。渡り廊下かな？

彩野 絵理／はい。

GM／渡り廊下へつながる廊下、図書館へつ

ながる渡り廊下です。手をかけると簡単に開くことができるでしょう。図書館側の扉は薄く開いており、微かに冷たい空気が届いている。おそらく冷房のおかげでしょう。

彩野 絵理／おお。

GM／とりあえず描写だけ済ませちゃいます。ラウンジ、銀樹だね。

塚森 銀樹／はい。

GM／今いる部屋です。窓から見える景色はいつの間にか紺色に染まっているでしょう。日は落ちてしまったはずなのに、だんだんと蒸し暑くなってきた。長居するのは得策ではないだろう。銀樹は何かしますか？

塚森 銀樹／後で【観察眼】振りますね。

GM／じゃあ今やっちゃいますか。【観察眼】振ってください。

塚森 銀樹／はい。

ダイス／出目が2、【観察眼】の判定値7、成功数1、成功。

塚森 銀樹／成功ですね。赤くて金色の……簪、簪……。

GM／あなたがそう歩き回っていると、クシヤットと何かを踏んだことに気が付きます。

塚森 銀樹／あれっ。

GM／セピア色の紙切れのようです。

塚森 銀樹／なんだこれ。かがんで拾い上げます。

GM／無造作にちぎられていて形が歪です。読むと日記の一部のようです。＂学ぶとは何かわからなくなってきた。私の目指すべき場所はどこだろう。＂と書かれています。

塚森 銀樹／今日の落とした資料かと思っただがこれは違うな。あとでハルカさんに聞いてみるか……。

GM／では天童。扉の鍵は開いておらず押しでも引いてもびくともしません。よくみると本来あるはずのカギ穴が消失しているようです。ここで天童に【共鳴判定】です。

天童 翔／よしてきた。

GM／【共鳴判定∞】。強度2上昇1。共鳴感情、嫉妬、情念です

ダイス／出目が6、【共鳴判定∞】の判定値2、成功数0、失敗。

天童 翔／おおー。

GM／失敗ですね。あなたは特に何も感じず、扉があかない！ と気づきますね。

天童 翔／押しても引いても効かないんだ
ったら横はどうだ！ だめだ。

GM／びくともしないです。

塚森 銀樹／なんか向こう側ガタガタ言ってるな……。

彩野 絵理／……うるさいな。

GM／彩野のところに戻ります。彩野が扉に
少しだけ手をかけると、開いた隙間から何か
が飛び出していきます。

GM／（ハルカ）「あたし向こうが気になる
わ！ ちょっと行ってくる」といってハルカ
が飛び出して行ってしまうでしょう。

彩野 絵理／え！ ちょっとまって！ 一
人は危ないよ！ とついていきます。

GM／ハルカは足が速いのと小さいのとで、
姿が見えなくなっていました。

彩野 絵理／えー。ちょっと二人を呼んで来
よう。

彩野 絵理／塚森くん！ 天童くん！ ち
よつと来て！

塚森 銀樹／どうしたんだ彩野、大丈夫か？
なんか悲鳴っぽいのが聞こえたので行きま
す。

天童 翔／なんかあった？

彩野 絵理／突然ハルカちゃんがあつちの
ほうに飛んで行っちゃって。

塚森 銀樹／あぶな！

彩野 絵理／あんなに小さいから私ひとり
じゃ探せないし……。

塚森 銀樹／それもそうだな。

彩野 絵理／とりあえず図書館

塚森 銀樹／さっきの部屋も暑くなってきたし、
こっち涼しそうだから。

彩野 絵理／うんうん。じゃあちよつと開け
たい。

GM／それでは。中に入ると、冷房の風があ
なたたちを出迎えます。司書や生徒の姿は見
えず、ハルカも見当たりません。

彩野 絵理／誰もいない……。

塚森 銀樹／すずしい。

天童 翔／まあ、こんな時間に利用している
人いないよな。

彩野 絵理／でも、エアコンつけっぱだし、
誰かいると思ったんだけどなあ。だからハル
カちゃんが行っちゃったら危ないなあって
思ったの。

塚森 銀樹／確かに見つかったら騒ぎには
なるな、あれ。

彩野 絵理／でしょ？ ハルカちゃん、探せ
ないですか？

GM／そうですね、もう、見渡しても、物音
すらしません。

塚森 銀樹／ええ！

彩野 絵理／物音しないのか……。

塚森 銀樹／静かだからいけると思ったの
に。

GM／あなたたちは、探索可能な箇所が4つ
あります。カウンター。壁際の本棚。新聞・
雑誌コーナー。自習室です。

彩野 絵理／じゃあ、私ちよつとカウンター
のほうを見てこようかな。

天童 翔／あー、じゃあ俺自習室かな。

塚森 銀樹／じゃ、新聞・雑誌コーナーにち
よつと行ってきます。

GM／はい、じゃ順番にやっていきましょう
かね。カウンターです。本の貸出、返却を行
っているカウンターがあります。特に技能を
使わずとも、カウンターの上に手帳が置かれ
ていることに気が付くでしょう。

彩野 絵理／何？ この手帳。どう見ての司書さんとかのお仕事道具じゃないよね……。中、なにが書いてあるだろう？ ぺら。

GM／いいですねえ。はい、ええと。いたって普通の手帳ではありますが、表紙の素材は革で、緑色をしています。リボンのようなもので縛られており、万年筆も結ばれている。裏面には「トヤ 櫻木」と書かれています。少しかび臭いです。いたって普通の手帳画はあるが、中の紙は乾いてセピア色になっている。何度か書かれページが破かれているようで、厚みがありません。表紙を開くと、「5月3日。図書館で小説を2冊借りた。すぐに読み切ってしまったから、もう少し借りればよかったかもしれない。家に帰るとお母さまが簪をくれた。赤くて艶々した硝子玉が美しい」と書かれています。日記のようです。

彩野 絵理／なんでこんなところに、こんな古い日記があるんだろう。しかもページもなし、高そうな万年筆ついているし。落とした物かなあ。あと……ん？この、簪……ハルカちゃんも同じもの探してたような……。とり

あえず、他の、塚森君とかにも聞いてみよう。

GM／はい、ということじゃあ、次は塚森ですね。はい。数多の雑誌と新聞が置かれています。何か、やりたいことはありますか？
塚森 銀樹／ハルカさん、と呼びかけながら技能で何か、【観察眼】かな？

GM／うん、いいですね、じゃあ振ってみましょう。

塚森 銀樹／振りまーす。ハルカさん。おう……。

ダイス／出目が1、【観察眼】の判定値が6、成功数マイナス1、ファンブル。

GM／ファンブル、ですねえ。

彩野 絵理／まさかの。

塚森 銀樹／こんなところで……。

GM／特に何も見つけられないどころか、ちよつと不注意で雑誌の棚に足をガンつとぶつけてしまうかもしれないですね。

塚森 銀樹／ハルカ、痛!! ダメージは入りますか？

GM／入りません。

塚森 銀樹／じゃあちよつと、足の小指ぶつ

けて悶絶しておきます。うわあ、ああ！ハルカさん……！

GM／じゃあ、ええと、自習室行きますかね。

天童 翔／はい。

GM／はい。大きな窓から、夕日が差し込んでいます。いくつかのテーブルと椅子が備えられた自習室です。ここにも、生徒やハルカの姿はないようです。

天童 翔／うーん、いないかあ。【観察眼】で一応、何かないか見ます。

GM／はい、じゃあ、どうぞ。振ってみてください。

ダイス／出目が1、観察眼の判定値が10、成功数マイナス1、ファンブル。

彩野 絵理／ファンブル(笑)

GM／ええ、では、あなたは特に何も見つけることができず、そうですね、椅子の足に足を引っかけてつんのめってしまいますね。ガタガタと大きな音がするでしょう。

天童 翔／奥のほうから、同じように悶絶してる声が聞こえるかな。同タイミングくらいで一斉に転んでそう。

塚森 銀樹／ドカつとか言ってね。

彩野 絵理／騒がしいなあ。

塚森 銀樹／ハルカさん……！

天童 翔／ダメーじ入りますか？

GM／入りません。

天童 翔／やったー！

GM／では一周したので、自分が今いた場所
なければ、再度、探索することができます。

彩野 絵理／ええと、じゃあ。壁際の本棚
……ああ違う。最初に様子を見に行くとい
ことで、新聞・雑誌コーナーに絵理ちゃん
行きたいと思います。

塚森 銀樹／銀樹は悶絶まだしてますね。

GM／はい。

彩野 絵理／ちょ、ちよつと、塚森君。

塚森 銀樹／ハルカさん……！

彩野 絵理／大丈夫？とりあえずさあ、本読
むスペース能所に座ってたら？ここは私が
見てみるから。

塚森 銀樹／すまない。ちよつと、頼んだ。

彩野 絵理／ていうか、さつき奥のほうの自
習室でもすごい音がしてたから、もし余裕が
あったら翔君のことも見てきておいて？

塚森 銀樹／心配だなあ。心配なのでちよつ

と、銀樹えつと、自習室かな？ 行きます。

GM／はい、じゃあまず、絵理からかな。

彩野 絵理／私も観【察眼】を。ハルカちゃんを
探しながら【観察眼】を振りりたいと思
います。

GM／はい、どうぞ。

彩野 絵理／ダイス、ロール！ 出目が
2、2、2、【観察眼】の判定値8、成功数
3、トリプル。

GM／ええ、では、では。

彩野 絵理／ハルカちゃん？ Where are
you going?

GM／えー。二つ、ものを見つけることがで
きます。丸められた紙と紙切れのようです。
まず、丸められた紙。それは賞状のようでした。
内容は次の通りです。「櫻木遥殿。貴殿
は本校で学業に精励し、極めて優秀な成績を
修めたとしてこれを称する。……年度、2月
19日」端のほうは切り取られています。次
に、紙切れですね。「2月10日。今度、みんな
の前で発表されるよう。そんなの求めてい
ない。私は私の生きる道が欲しい。家族にも、
学校にも縛られず、やりたいことに進みたい」

と書かれています。

彩野 絵理／ハルカちゃんは見つからない
し簪も見つからないのに、なんか、紙ばつか
り手に入る。これは……賞状？櫻木、遥。あ、
ちよつと探し人と同じ名前だ。で、こつち
は？手帳……かな？あれ？さつきのやつと
同じかな？今度、みんなの前で発表……うー
ん、とりあえず、持っておこう。塚森君、大
丈夫かなあ。

GM／はい、では、塚森たちに移ります。

塚森 銀樹／優しいなあ、すごい心配してく
れてる。

GM／塚森が自習室に入ると、

塚森 銀樹／翔、無事か？！

GM／目の前にうずくまっている翔がいる
でしょう。

塚森 銀樹／翔、おまえなんて姿で……！

天童 翔／ううう（涙目）

塚森 銀樹／自分と同じことをしたのかと
察して、熱く抱擁をします。

塚森 銀樹／翔！ 無事か！

GM／えー、塚森が自習室に入ると、目の前

にうづくまっている翔がいるでしょう。

塚森 銀樹／翔、お前、なんて姿で……。

天童 翔／銀樹く（涙目）

塚森 銀樹／自分と同じようなことを経験したのかと察して厚く抱擁します。

天童 翔／ごめんなあ、いやー、ハルカさんを見つけようとしたんだけどよー、いやー、ちよつとつんのめって……盛大にこけた（笑）

塚森 銀樹／大丈夫だ。俺もさっきそこで小指をぶつけた。

天童 翔／……俺ら似た者同士だな。

塚森 銀樹／そうだな（笑） ってことで翔の代わりにここであつと、【観察眼】を振ります。

GM／はい、えつとじゃあ、翔は何かしますか？

天童 翔／うーん、じゃあ、お邪魔虫のようなので、壁際の本棚の壁際に寄ります。

GM／はい、では塚森からですね。メインで降ってね。

塚森 銀樹／探そうとしたつてことは、まだ見つけられてない、特に何もまだ見られてないつてことだよな。えーつと、ハルカさーん

？（ころころ）出目が8、【観察眼】の判定値7、成功数0失敗……特に何もないつと。

GM／えー、貴方はこう、探し回つてみましたが、特にハルカの姿は見受けられないようです。

塚森 銀樹／よし、特に何もないな。

GM／では、じゃあ、天童かな。

天童 翔／はい。

GM／はい、えーつと……壁際の本棚です。小説や新書と呼ばれるような類の本が置かれています。何かしますか？

天童 翔／……よし、今度こそ！ と言つて【観察眼】をもつかい振ります。

GM／はい。

天童 翔／（ころころ）出目が2、判定値7、成功数1成功。

GM／いいですねえ。

塚森 銀樹／仲間じゃ、仲間じゃないの……。

GM／えー、それでは貴方は一冊の古びた本が本棚から飛び出ていることに気づくでしょう。

天童 翔／おつ、なんだこれ。……手に取っ

て読みます。

GM／はい。背表紙には『女生徒』と書かれています。その本から何かが飛び出ているようです。取り出してみると、綺麗に折りたたまれた手紙のようです。（手紙の内容）「知ってる？ この大学の七不思議。夜、この図書館に来ると黒いお化けに追いかけるんだつて。カエセ、ユルサナイつて言つて来るらしいよ」と書かれています。

天童 翔／大学に七不思議なんてあるんだ……。お化けと追いかつこか……ちよつと面白そうだな。その手紙を一応持つておきます。

GM／はい。では一通り探索は終わりましたが、他にやりたいこととがありますか？

塚森 銀樹／自習室……。

彩野 絵理／うーん……。とりあえず彩野ちゃん自習室に行こうかな。

塚森 銀樹／うん、ごめんね、探せてない。

彩野 絵理／二人の様子を見に行くつてことで。

GM／他二人はどうしますか？

塚森 銀樹／えーつと、多分塚森は本当に何

もないと思ったので、えー、図書室に一回戻ろうとして多分彩野ちゃんと出くわすなくらいですね。

GM／いいですね。

塚森 銀樹／あつ、彩野つて。

天童 翔／……俺は……もう見たいとこ無いけど、ハルカさんは探したいので、図書館全体に【聞き耳】を振りたいです。何か音がないか。

GM／はい。じゃあ、そんな感じでいきますかね。まず、彩野から行きましょう。

彩野 絵理／ああー、あれつ、塚森くん。天童くんは？

塚森 銀樹／えーつと、天童なら、まあ、つのめってこけてはいたけど、大丈夫そうだったからそっちの方面行っただぞ。会わなかったか？

彩野 絵理／会ってないし、なんで二人共そんなにどんくさいの？

塚森 銀樹／ど、どんくさいって……。結構傷つく……。

彩野 絵理／なんか見つかった？

塚森 銀樹／いや、特に何も見つけれなかった。

たけど。多分何もないよ。

彩野 絵理／いや、信じない。

塚森 銀樹／何もない（笑）

彩野 絵理／あんな、だつて、あれだよ。新聞かけるところに小指ぶつけてうずくまってる人の言葉なんて全然信用ならないから。

塚森 銀樹／ウツ！

彩野 絵理／私がかい見とくからちよつと待ってて。

塚森 銀樹／お願いします。彩野さん。端っこの方で待機してます。

彩野 絵理／じゃあ【観察眼】を振ります。

GM／はい。いいですよ。

彩野 絵理／ハルカちゃん？（ころころ）出目が10・4・3で判定値が8、成功率1の成功。

GM／いいですね。

天童 翔／流石です。

塚森 銀樹／おつ、さすが。

GM／えー、それでは貴方は机の下に何か光るものがあることに気づくでしょう。

彩野 絵理／やつぱりなんかあるじゃん。

塚森 銀樹／えつ、嘘だろ。

彩野 絵理／ほらほら、見て。なんか光ってるよ。

塚森 銀樹／彩野の方に近づいていきます。

どれどれ？ あつ、本当だ。

GM／手に取って見ますか？

彩野 絵理／はい。取って見ます。

GM／はい。えー、それは簪でした。赤いガラス玉がついた簪です。高価なものには見受けられないでしょう。

彩野 絵理／あつ、これってあれじゃない？

？ ハルカちゃんが探していた簪じゃない？

塚森 銀樹／特徴が一致してるな。肝心のハルカさんはまだ見つかってないわけだが。

彩野 絵理／そうなんだよねえ。折角見つけたから渡したいんだけど……。

GM／そうだな。じゃあ、えー、彩野は【五感】か【視力】、高い方を振っていいですよ。

彩野 絵理／はい。【五感】か【視力】、えーつと。

GM／【五感】か【視力】のどっちか。

彩野 絵理／【五感】のどれですか？ あれっ？

GM／あつ、【五感】そのものを。

彩野 絵理／【五感】そのもの、あつ、はい。

えーっと。これでいいのかな？（ころこ

ろ）出目が4・1・5で判定値8、成功数4ミラクル。

GM／おぉー、凄い！

塚森 銀樹／おぉー！

天童 翔／スゲーー！

彩野 絵理／ミラクル（笑）

GM／えー、それでは、この簪はとても古く所々にさびや劣化が見られることが分かります。

彩野 絵理／にしてもその簪ずいぶん古いね。ほら見て。

塚森 銀樹／どれどれ？

彩野 絵理／ほらこことか錆びちやつてるし。ここも塗装が剥げちやつてる。折角綺麗なのに……。

塚森 銀樹／本当だ。

彩野 絵理／これをつけるのかな？

塚森 銀樹／確かに大事なものって言うってたけど……あつ、でもお母さんから貰ったつってたから意外に古いものなのかも？

彩野 絵理／ああ……。形見とか？

塚森 銀樹／なのかも……。

彩野 絵理／とりあえず、ハルカちゃんが見

つかないかどうかにもなんないね。

塚森 銀樹／それもそうだな……。

彩野 絵理／もっかい呼んでみてよ。おっきい声で。

塚森 銀樹／スウ、ハルカさーん！

GM／……特に何の返答も得られないですね。

彩野 絵理／だめだねえ……。

塚森 銀樹／なんか塚森、良いところ無しなんです、技能なんか降つてもいいですか？

GM／いいですよ。

塚森 銀樹／なんか振れる技能ありますか？

GM／何振りたい？（笑）

塚森 銀樹／なんか、【直感】で振って、何となくヒントか何か得られれば。

GM／いいですよ。やつてみましょう。

塚森 銀樹／メインで……（ころころ）出目が3で判定値5、成功数1成功。

彩野 絵理／おぉー！

天童 翔／良かった。

GM／おぉ（笑）

彩野 絵理／ようやく成功（笑）

塚森 銀樹／やっと成功（笑）

彩野 絵理／やっとね（笑）

塚森 銀樹／やっと1だよ（笑）

GM／えー、そうですね。まあ、この簪すごく古いけど、やっぱりハルカが探していたそのものなんだろう、返してあげなくちゃ！と直感的に閃くでしょうね。

彩野 絵理／（笑）

塚森 銀樹／成功1だからなにもこれ以上情報がないな……。

GM／はい。じゃあ、天童に行きましょうかね。

天童 翔／はい。

GM／天童は、では、【聞き耳】かな？

天童 翔／はい。図書館全体に、物音のする方を確認します。

GM／はい。どうぞ。

ダイス／出目が2、【聞き耳】の判定値7、成功数1、成功。

GM／いいですねえ。

彩野・塚森／おお。

GM／あなたが耳をすませたその瞬間、突如、ドン、と壁を叩くような音がしました。

塚森 銀樹／おつ。

GM／それは、三人皆さんに聞こえてきました。

塚森 銀樹／なんだ、今の音？

彩野 絵理／なんか今、音しなかった？

塚森 銀樹／聞こえたよな？

彩野 絵理／ちよつと、天童君と合流します。

塚森 銀樹／合流します。心配なんです。

彩野 絵理／天童くーん！

塚森 銀樹／翔、大丈夫か!! 転んだか!!

彩野 絵理／また転んだでしょ！

天童 翔／いや、特には……。変な手紙は見つけたけどよお。いやそれよりさ、今なんか変な音しなかった？

彩野 絵理／えつ。だから、それが天童君が転んだ音かと思っただけど……。

塚森 銀樹／お前が転んだわけじゃないのか。

天童 翔／俺、そんな大きな音立てて転んでねえよ。

彩野 絵理／いや、さつき立ててたし……。

塚森 銀樹／（笑）

天童 翔／あれ？

GM／二人が外に出てみても、何かが倒れた様子はありません。そして、話している間にまた、ドン、と音がしました。

塚森 銀樹／うわつ。

GM／天童は気づくことでしょう。その音の在り処が、自習室の横、書庫から鳴っている、ということに。そして、その音は止むことなく、一定の間隔で鳴り続けています。

彩野 絵理／何だったんだろうねえ。

天童 翔／書庫から音がするのか？

塚森 銀樹／まだ、音鳴ってる……。どっからしてるんだろうな、この音……。

天童 翔／書庫からだよ。自習室の隣の。

塚森 銀樹／書庫？

天童 翔／もしかしたらさ、ハルカさんが閉じ込められてるとかないか？

彩野 絵理／ハルカちゃん？ そしたら大変だよ！ 早く行つて助けてあげないと！

塚森 銀樹／じゃあ、全員で行くか。

彩野 絵理／書庫へ。

一行は書庫へ向かった。

GM／あなたたちは、書庫の前にたどり着きます。技能はいらないかな。あなたたちが書庫の前に着くと、目の前に、セピア色の紙切れが落ちていることに気づくでしょう。

塚森 銀樹／あれ、これさっきの……。

彩野 絵理／それ私も拾ったよ？

天童 翔／なにになに？

塚森 銀樹／あれ？

彩野 絵理／どれ、なんか書いてある？

塚森 銀樹／えーつとどれどれ……。

天童 翔／何も知らない僕は……。

塚森 銀樹／（笑）。塚森が拾い上げて、ちよつと見ます。

GM／紙切れには、こう書かれています。「簪がない。お母様に怒られる。お母様に。お父様にも。怒られてしまう。せつかく説得できていたのに。怒られてしまう。怒られてしまう。お母さんに」と、書かれています。

塚森 銀樹／簪？

彩野 絵理／これってやつぱり、さつきから

薄々思ってたんだけど、これってさ、ハルカちゃんのだよな？

塚森 銀樹／そうなのか？

天童 翔／えっ、何それ俺知らない……。

塚森 銀樹／（笑）

彩野 絵理／私さっきね、手帳を見つけたの。

塚森・天童／ほう。

彩野 絵理／そこにも色々書いてあって……。裏の名前に、「二年のA、櫻木」って書いてあったの。それで、その前に見つけた、

あつ、その次に見つけた紙、なんか賞状みたいなのも拾ったんだけど、そこに「櫻木 遥」って書いてあったの。だから、やっぱりそれって、ハルカちゃんのなんじゃないかな……？

塚森 銀樹／俺はそんな……。

天童 翔／それってさあ……あつ、ごめん。

塚森 銀樹／いや、大丈夫です。——俺はそんな……。

天童 翔／いや……。

塚森 銀樹／あつはい。

天童 翔／……譲ります！

塚森 銀樹／はい！

彩野 絵理／（笑）

塚森 銀樹／俺は、賞状なんてデカイものを見逃していたのか……。

彩野 絵理／それは……そうだね。……でも、どうしよう。とりあえず書庫に行かないと。

ハルカちゃん見つからないし……。

塚森 銀樹／でも、これハルカさんだとしたら……。

天童 翔／なあ、ちょっと気になったんだけどよお。

彩野 絵理／うん。

天童 翔／二人が見つけたのって、俺たちが

見れるくらいのサイズのやつ？

塚森 銀樹／おお。

彩野 絵理／ああ。そうだね。

天童 翔／でもハルカさんってさあ、親指で

しよ？ 親指姫でしょ？

彩野 絵理／ああ。

塚森 銀樹／そうだな。一分の十スケール親

指姫……。

彩野 絵理／言われてみれば……。変だね。

塚森 銀樹／そうだなあ。

天童 翔／ハルカさんって……もともと人

間？

塚森 銀樹／それと、俺少し思ってたんだけど、簪がないって気づいたのさっきだよな？

彩野 絵理／えっ、と、とりあえず、書庫行

ってみない？

塚森 銀樹／そうだな……。

彩野 絵理／ここであれこれ考えてたって、

分かんないよ……。ということで、書庫の扉

を、ガチャッと、開けます。

塚森 銀樹／できれば、塚森が前に出て開け

ます。メンズなんで。

彩野 絵理／お、かっこいい。

GM／では、あなたたちは、書庫に足を踏み

入れます。

GM／えく……。共鳴者……あなた達が書庫

の扉を開けると暗闇の中に、何かが蠢いてい

ました。その体は闇に溶け込むように黒く、

ヘドロのような見た目をしています。身体の様

々な位置に口があり、それぞれが「うう……

……」「悔しい……」「悲しい……」「苦しい……

……」と、唸り続けているようです。【共鳴】

判定が発生いたします。

共鳴判定強度4、上昇3。共鳴感情は【劣等感（傷）】です。

塚森 銀樹／なんだ、あれ。

彩野 絵理／なに？ あれ？

天童 翔／うわっ、気持ち悪っ。

塚森 銀樹・彩野 絵理／（笑）

GM／えー、では、持っている感情に【劣等感（傷）】がある方はいいますか？

塚森 銀樹／……ない。

天童 翔／ないです。

彩野 絵理／持ってないです。

GM／じゃあ、全員一番上にある通常のやつですねえ。少々、お待ちください。

彩野 絵理・塚森 銀樹・天童 翔

／はい。

GM／はい。では、判定をお願いします。

彩野 絵理／共鳴！ 出目2、【共鳴】の判定値4、成功数1成功。

彩野 絵理／成功！

塚森 銀樹／じゃあ、振るか。共鳴！出目5、

【共鳴】の判定値4、成功数0失敗。

塚森 銀樹／失敗！

彩野 絵理／ああ……！

天童 翔／ダイスロール！ 出目10、【共鳴】の判定値4、成功数-1ファンブル。

天童 翔／ファンブル！

彩野 絵理／（笑）

塚森 銀樹／うわっ、ファンブル!?

GM／……えー実は、【共鳴判定】は成功しては、いけないんですね。

彩野 絵理／えっ。

塚森 銀樹／お。

GM／というわけで……えっと……。

彩野 絵理／あー、はい！

天童 翔／あー、やっぱりか。俺、バカだからわかんねえ。

塚森 銀樹／さっきの反応の通りに……。

GM／では、彩野は共鳴レベルが4、えーあつ、3ですね。3上昇します。

彩野 絵理／さん！ ……3!？ はい。

塚森 銀樹／あつ、でかい。

共鳴レベル変動／彩野 絵理…共鳴レベル1↓4。

GM／はい、上昇しました。彩野は突如として胸元が苦しい……あつ、突如として、胸元に苦しみを覚えます。自分の才能、自分の今

までしてきたこと。それが何か、後悔に繋がっているような。そんな苦しさを覚えて、少し顔を歪めることでしよう。

彩野 絵理／ううっ……なに、これ……？

塚森 銀樹／大丈夫か？ 彩野、どうした？!

天童 翔／どうした?! 彩野？

彩野 絵理／と、とりあえず……逃げないと。

GM／えー、怪異は……。

天童 翔／天童は怪物の方を見えます。ずっと。

GM／怪異は共鳴者に気づくと、ブルブルと音を立ててこちらへ向かってきます。

「どうして？」「許せない」「私だけ」「返して」「許さない」「羨ましい」「私は？」「返して」「悔しい」「助けて……」などと言いがら、まだ蠢いているでしょう。

彩野 絵理／と、とりあえず……逃げないと……！

塚森 銀樹／翔。彩野連れて外出れるか？

つて掛け合ってみます。

天童 翔／わかった、任せろ！

塚森 銀樹／塚森……【技能】でなんか、ス

ビード？　とかで、怪物が綾野のところにたどり着くより前に、その2人の間に割って入れるか振ってもいいですか？

GM／あつ、そういうことはせずとも、書庫の外には出られるでしょうね。

塚森　銀樹／お、よかった。じゃあ。

GM／はい。

塚森　銀樹／ダッダッダッダ。

彩野　絵理／逃げます。

塚森　銀樹／逃げます……扉を閉めます。

GM／はい。あなたが達が書庫の扉を閉めると、また、ドンドンと、壁を叩く音だけが聞こえるようになります。

彩野　絵理／っ……。

塚森　銀樹／何だったんだ今の……。

天童　翔／てんどーは、本棚の本とか持ってきて、扉の前塞ぐかな……気休めだけど。

塚森　銀樹／じゃあ、綾野の様子を塚森は見ます。大丈夫か？　彩野？

彩野　絵理／彩野は、ダウン、中です。

天童　翔／えっさ、ほいさ。

塚森　銀樹／ん。

彩野　絵理／さっきの何だったんだろう……？

塚森　銀樹／そうだなあ……、少なくとも、

ハルカさん……では、なかった、からな……。ハルカさんが心配だな。

彩野　絵理／そうだよな。

天童　翔／お化けじゃねえの？

塚森　銀樹／え。

彩野　絵理／おぼけ？

天童　翔／さっきさ、こんなやつ見つけてさーって言って、手紙の方、ぺらぺらしながら見せます。

GM／いいですよ。

塚森　銀樹／彩野を支えながら、覗き込みます。

天童　翔／七不思議とか書いてあるから……。

彩野　絵理／七不思議？

天童　翔／別に、噂話かなあって、思ってたんだけど、いるんだなあ……お化けって。

彩野　絵理／何でそんなに冷静なの……？

天童　翔／バカだから！

塚森　銀樹／（笑）

彩野　絵理／でも、このままここにいたらまずいよね。

塚森　銀樹／そうだなあ。

彩野　絵理／でも、ハルカちゃんも心配だし……。

塚森　銀樹／とりあえず、この紙にこんな、それっぽい情報が書かれてるってことは、図書室以外には出てこないってことなのか？

彩野　絵理／ああ……。

塚森　銀樹／だから、このまま帰れば逃げれる、とは思う？　けど、やっぱ、ハルカさん心配だよな。

彩野　絵理／それに、……あの怪物、返せって言ってた。

塚森　銀樹／返せ……。

彩野　絵理／返せって、何を？　じゃあこの返せを知るために直感とか触れますか？

塚森　銀樹／あ、そうだ……【直感】！

GM／そう、ですなあ……。そしたら……うーん、塚森、かな。

塚森　銀樹／はい。

GM／えーっと、【洞察】を、振ってください

い。

塚森 銀樹／どうさつ、はい。

天童 翔／失敗すんなよー。

塚森 銀樹／そうだな。いいとこ見せてやる。

……ほい！ 出目5 洞察の判定値3 成功数0 失敗。

塚森 銀樹／うつ。

彩野 絵理／ああ……！

塚森 銀樹／うつ。

GM／失敗ですね……。

塚森 銀樹／じゃあ、唸ってますね……如何したものかと。

GM／じゃあ、えつと、彩野、天童の順で同じように洞察を振ってください。

彩野 絵理／はい！

天童 翔／はい！

彩野 絵理／どうさつー。

GM／持つてなかったら、えー、持つていなければ、そうだな。【直感】または【知力】でいいですよ。

彩野 絵理／はい！ じゃあ直感振ります。

GM／はい。

彩野 絵理／【直感】を。出目9 直感の判

定値7 成功数0 失敗。

天童 翔／ああつ。

彩野 絵理／あ、失敗。

天童 翔／じゃあ、俺も直感振ります。ダイスロール！ 出目5、7 直感の判定値7

成功数2 成功（ダブル）。

塚森 銀樹／おつ。

GM／お！ いいですねえ……。

彩野 絵理／カッコイイ！

GM／ダブルだから……。

塚森 銀樹／カッコイイよ！ 格好いいぞ！

GM／ダブルだから……、じゃあ、情報を開示します。

天童 翔／わーい。

塚森 銀樹／俺、いいとこない。

GM／あなたは、今までの……今まで、えー、手に入れてきた手記やハルカとの会話、そしてあのお化けの噂、そのお化けそのもの、それらを加味して、あのお化けに簪を手渡せば何か変わるのではないかと直感的にひらめくでしょう。

彩野 絵理／ん……。一体何を返せば。

塚森 銀樹／返すつて、一体何を？

天童 翔／うーん。

彩野 絵理／ん？

天童 翔／じゃあ、ピーンつて頭に電球乗つけたような顔して、ハルカの、ハルカじゃねえわ。彩野の方バツ！ つていつて、それ！ つて……、待つて、待つて。そうだ！ こいつ簪、見つけたの知つて……、知らねえ！

塚森 銀樹／あつ、そうだ……簪……。

天童 翔／伝えた？ 彩野が持つてゐるつて。

彩野 絵理／言つてない！

塚森 銀樹／言つてない……。

彩野 絵理／とりあえず……じゃあ、私たちの持つてゐるもの。出してみる？

塚森 銀樹／そうだな。何か情報があるかも知れないしな。つて言つて、全部出します。

紙を、一枚だけど……！ ぺら。

天童 翔／俺もこの手紙を。

彩野 絵理／私は、手帳と、この賞状と、紙きれを。

GM／そうだね、じゃあ天童はハルカが簪の話をしていたな……というので閃いたことにしますか。

天童 翔／ピカーン！ それ！ つて言つて指さして、俺の勘が言つてる、多分その簪を返せばいいんじゃないか？

彩野 絵理／……っ。

天童 翔／勘だけど。

塚森 銀樹／これ、ハルカさんのじゃあ……？

彩野 絵理／そうだよ何言ってるの？

天童 翔／いやさ、おかしいなとはずっと思つてただけどさ、図書館から……、待つて、考える……。

彩野 絵理／……図書館から？

天童 翔／ハルカさんの気配が全くしねえんだよ。

塚森 銀樹／……確かに、探してて音1つもなかったよな。

彩野 絵理／なに？ 図書館からハルカちゃんが消えたのと引き換えにあれが現れたから、あれがハルカちゃんだとでも言いたい？

天童 翔／んー、……こう、論理建て説明するとか、俺には無理だから……、なんというか！ ほんとつーに、直感でしかねえ！

塚森 銀樹／……まあ。

天童 翔／でも、それを信じるかどうかは2人に、任せる。

塚森 銀樹／うーん……。

彩野 絵理／どうする？

塚森 銀樹／まあでも……、手帳のサイズとか、その、古びた簪とか、手帳書いたタイミングとか、不可解なことは沢山あるんだよな。

彩野 絵理／あれを渡せば、解決するかな……。じゃあ分かった、やろう。

塚森 銀樹／……だな！

天童 翔／おう！

彩野 絵理／でも、どうやって渡す？ あいつに会ったら、すぐ絶対、追いかけられちゃうよ。

塚森 銀樹／とりあえず、さつき体調が悪くなった彩野は行かない方がいいかもな。

彩野 絵理／2人だけで大丈夫？

天童 翔／……簪は俺が持つよ。

塚森 銀樹／いや、俺が持つ……。

天童 翔／俺が言い、だした。

彩野 絵理・塚森 銀樹／（笑）

塚森 銀樹／格好いいトコが……！ 今の

ところ無いっ！

天童 翔／（笑） 本音が漏れてるぞ！ でも、追いかけてこしてえな。うーん……。じやんけん！

彩野 絵理／ここでじゃんけん！

塚森 銀樹／じゃんけん。じゃんけんするか！ こういうのって……？

GM／じゃあ、そうですね。幸運を振っていいただ……あ、（咳き込み）

塚森 銀樹／大丈夫か？

彩野 絵理／大丈夫ですか？

天童 翔／1D10のちっちゃい方？

GM／1D5を振ってもらって、でかい目が出た方にしましょう。

塚森 銀樹／はい。

天童 翔／はい。

塚森 銀樹／1D5って、これどう入力すればいい？ 1D5でいい？

GM／半角で1D5って入力すればオッケ！。

塚森 銀樹／オーケー、1D5……はい。ほいっ！ 【じゃんけん】出目1。ああっ！

天童 翔／行くぞ、じゃんけんポン！ じゃ

んけん」出目3。

塚森 銀樹／ポン。

彩野 絵理／あつ。

GM／……天童の勝ちですね。

塚森 銀樹／おおう……。

天童 翔／俺の勝ち！

塚森 銀樹／よかった、何も言わない方が恰

好良かったッ……！

彩野 絵理／天童君、じゃあこれよろしく。

天童 翔／おう！ 任せろ。

彩野 絵理／気をつけてね？ 2人とも。

塚森 銀樹／ああ。

彩野 絵理／渡せばいいんだから、最終的

には、投げるとかでも大丈夫だから、とりあ

えず、気をつけて！

塚森 銀樹／行ってくる。

彩野 絵理／私は他が来ないか見てるから。

塚森 銀樹／彩野も気をつけてな。

彩野 絵理／うん。

塚森 銀樹／よし、いこう！

天童 翔／銀樹。本棚をどかしてくれ。

塚森 銀樹／（笑）……そうだな。それ、

本を積んじやったからね。

天童 翔／うん。

塚森 銀樹／よしよ、よしよ。よしよ、

よいしょ。よし。じゃあ、行きますか？

天童 翔／おう。

GM／はい。では、また書庫にあなたたち

は向かうことでしよう。

塚森 銀樹／ザッザッザッザ。

GM／えー、やはり、部屋の中にはあの黒い

何かが蠢いています。探索者たちを見つけ

ると、また返せ、許さない、などと呟きなが

らこちらへ向かってきています。

天童 翔／天童は、簪を手のひらに乗せてひ

ざまずいて、これだろ？ 返すよ。

塚森 銀樹／あまりにもかっこいい（笑）

彩野 絵理／（笑）王子様みたい。

塚森 銀樹／かけえ！ じゃあ、塚森は何

かあってもすぐに天童を庇えるように後ろ

で構えます。

GM／はい。

GM／ハルカの簪を怪異の目の前に出すと、

怪異がもがき苦しみ始めます。ヘドロの一部

が、あなたの、天堂の手に絡みつき、離れる

と同時に簪を奪い取りました。口は、「私の」

「お母様」「赤い」「お母さん」などと呟いて

おり、目から真つ白な雫が落ち始めます。

次第にヘドロは溶け始め、あなたたちの足元

に広がることでしよう。しかし、靴などが汚

れる様子はなく、床に染み込むように消えて

なくなりました。ヘドロの塊があつたところ

には1人、女性が立っています。女性用の袴

に身を包み、栗色の髪を束ねてリボンを結ん

でいます。体の前で上品に重ねられた手には、

先ほど取り込まれた簪が握られています。

「ありがとうございます。ずっと、探してい

たんです。」そう言って嬉しそうに微笑んだ

女性は、ハルカと瓜二つでした。敵意は、も

う見られません。

天童 翔／ハルカさん、でいいんだよね？

塚森 銀樹／そう、だな。サイズはだいぶ違

うけど。

GM／（ハルカ）あなた達にそう言われると、

「はい……私がハルカですが……」と答えて

きます。

彩野 絵理／あれ？

天童 翔／いやあー、そっかそっか。

塚森 銀樹／俺たちのこと知ってる？

GM／（ハルカ）「いえ……初めまして、です

よね？　なんだか不思議な方たち」

塚森　銀樹／ああ……。

彩野　絵理／物音が止んだので、彩野合流してもいいですか？

GM／いいですよ。

塚森　銀樹／お願いします。

彩野　絵理／たったたった……二人とも大丈夫？

塚森　銀樹／あ、うん。

天童　翔／おぉー、大丈夫！　グッドサイン出します。

彩野　絵理／ああ、よかった……ってその人は、ハルカさん？

塚森　銀樹／みたいなんだけど、ちよつと違う？

彩野　絵理／ちよつと、大きい？

塚森　銀樹／記憶もちよつと……。

彩野　絵理／けどよかった、ハルカさん、無事でよかった。どうしてそんなに大きくなったの？

GM／（ハルカ）「あの、あなたは誰、ですか？」

彩野　絵理／え？

GM／「なぜ私のことを？　いやでも、私のことなんて誰でも知ってるか……。あの、ほんと、簪のことはありがとうございました」と言っ

て、お辞儀をします。彩野　絵理／ああ……じゃあさっきの黒い塊……。でも、無事に簪、あなたの手元に戻ってよかったわ。

塚森　銀樹／そうだな。

彩野　絵理／そうだ、せっかくならこれも返しておこうかな。この手帳とちよつと破けち

やってる紙だけど、いる？　っていつて、差し出します。手帳と表彰状。

GM／（ハルカ）はい。ハルカはそれを素直に受け取り「ありがとうございます」と深々とお辞儀をしました。「あの、もしかして簪探してくれていたんですか？」

彩野　絵理／そうだよ。あなたに言われてずつと探してたの。あのあと見つけたんだけど、ハルカちゃんに先にいなくなっていたから。後ろの二人も一緒に探してくれていたんだ。

塚森　銀樹／バタバタしちゃったけどな（笑）

GM／「そう、だったんですね。あなた達を困らせてしまつて、いや、巻き込んでしまつて本当にごめんなさい。でもやつとこれで、これで安らかに眠れます」そう言つて女性は簪を大切そうに抱えています。やはりあの小さなハルカの姿はありません。

天童　翔／別にいいってことだよ。

塚森　銀樹／謝るようなことでもないしな。

彩野　絵理／あなたが無事で簪が手元に残つたならよかった。もとはと言え、あなたが私たちを笑顔にしてくれたの。そのお礼だから。

天童　翔／いやあー、いい事して返すつていいね。

塚森　銀樹／改めて自己紹介とかするか？

彩野　絵理／そうだ、そうだね。自己紹介。

私たちのこと知らないんだもん。私は彩野絵理。

塚森　銀樹／俺は塚森銀樹。

天童　翔／俺は天童翔！

GM／（ハルカ）「私は櫻木遥です」と答えてくるでしょうね。

塚森　銀樹／改めてよろしくな。

彩野　絵理／遥さん、あなたは、本当は何者なの？

GM／（ハルカ）「私は……そうですね、昔のこの生徒と言つた方が適切なんでしょうか。もうこの世にはいないんです。本当は」

彩野　絵理／そうだったのね。

塚森　銀樹／簪、大事だったんだな。

GM／「私、昔学校で簪を落としてしまつて、それで、それ以外のことは覚えていないんです。ただ簪が欲しくて、見つけたくて……それでおそらくあなた達を巻き込んでしまつたんだと思います」

彩野　絵理／すごく大事なものの……。

塚森　銀樹／巻き込んで……あつ、うんはい、いきます。

彩野　絵理／はい（笑）

GM／（笑）

彩野　絵理／（笑）

塚森　銀樹／巻き込んだなんて言わないでください、つて。大事なものでしたんでしょ。俺たちが探したくて探したものですから。

彩野　絵理／そうだね。

天童　翔／一緒に遊んでくれたお礼だ！

気にすんな。

GM／（ハルカ）あなた達がそう言うのと、ハルカは少し困ったように笑うことでしょう。

「この簪、私のお母様がくれたものなんです。入学祝いについて。それがすごくうれしくて、すごく大事なものでしたので、本当にこれで何も悔いはありませんね」

彩野 絵理／そっか……。じゃあもうどこか違うところに行っちゃうの？

GM／「ええ、きつと。そんな気がします」
塚森 銀樹／本当の名前を知れたっていうのにもうお別れなのかあ。

彩野 絵理／私たちも帰らなきゃね。

天童 翔／そうだなあ……。もうバス行っちゃっただろうし。

塚森 銀樹／あ、GM、GM。

GM／はい。

塚森 銀樹／さっきのみんなで折った折り紙とか遥に渡せたりしますか？

GM／いいですよ渡して。

塚森 銀樹／今の遥さんには記憶ないかもだけど、これあげる、ってさっき折ったマツチヨ鶴を手渡します。

彩野 絵理／それあげるの？（笑）

GM／（ハルカ）「な、なんですか？なんですかこれ？」

塚森 銀樹／ほら、ひとりひとつずつ。みんなであげよう。

天童 翔／いやあ、俺のはちよつとなあ……。

彩野 絵理／天童君のあげたらショックで

早く行っちゃうかもしれないし。

塚森 銀樹／（笑）

彩野 絵理／じゃあはい。

塚森 銀樹／とてもきれいな折り鶴だ。

GM／「素敵。大事にさせていただきますね」と答えてくれるでしょうね。

塚森 銀樹／向こうでも元気でなあって。

GM／（ハルカ）あなた達から様々なものを受け取って、遥は少し寂しそうに笑うと目を閉じてあなた達を真っ直ぐと見据えます。「せめてものお詫びに、少しお手伝いをさせてください。頑張っているあなた達に」その言葉を聞き切るが早い、あなた達は強烈な眠気に襲われていくことでしょう。

彩野 絵理／ふわあ……。

塚森 銀樹／う、うん……。

彩野 絵理／急に眠い……。

塚森 銀樹／ドタツ。

天童 翔／バタツ。

GM／あなた達は目を覚まします。いるのはあのラウンジです。いつの間にか居眠りをしてしまっていたようです。

彩野 絵理／ん、ふわあ。あれ？

塚森 銀樹／あれ？

彩野 絵理／なにしてたんだっけ？

塚森 銀樹／俺ピノを食べようとしてたんだっけ。

天童 翔／あの、天童は起きません。

塚森 銀樹／ええっ！？

彩野 絵理／ピノ？

天童 翔／天童寝てますずっと。

塚森 銀樹／翔！ 翔！ 起きろ！

彩野 絵理／ピノめっちゃ溶けてる。

塚森 銀樹／ええ……。

天童 翔／じゃあピノっていう単語に飛び起きます……ピノ！

塚森 銀樹／溶けてるけど。

GM／えー、あなた達は目を覚ましますが、寝る寸前のことや、見ていた夢のことは覚えていません。いや、うつすらと覚えていたりかもしれません。何か探していたこと、誰かに感謝されたこと。それでもその体験が夢だったのか現実だったのかはわからないでしょう。

彩野 絵理／なんか、なっがい夢を見ていた気がするんだけど……。

塚森 銀樹／そうだなあ、なんかちよつと元気出た気がする。

天童 翔／天童は鼻歌歌ってますね。気分がよさそうに。

彩野 絵理／私は逆にちよつと疲れたというか。でもあれだ、早くサークルの新聞づくりを終わらせないと。

塚森 銀樹／あ、そうだ資料！

彩野 絵理／二人、思い出してね。

GM／はい、あなた達が机に視線をやると、自分たちが着手していたその課題が置かれて置いてありました。中身は求めている取材の資料や、新聞の切り抜き、またはその新聞

に使えそうな写真や噂話が書かれている書籍でしょう。そしてあなたは気づきます。食べかけだったはずのお菓子がなくなり、「一枚のセピア色の紙切れが置かれていることに。」お疲れ様。ありがとうございます。」そう書かれたその文字に見覚えがあるようで、ないようでそんな不思議な気持ちに囚われます。ふと時計を見ると、最終のバスの時間が間近に迫っていました。あなたは達は大慌てで荷物をまとめ、ラウンジを飛び出していきます……。というところで、エモクロアTRPG『春を待つ』これにて終了です。お疲れ様でした！

彩野 絵理・塚森 銀樹・天童 翔／お疲れ様でした！

●シナリオ背景

怪異は探していた。過去失った希望を。

怪異は妬んでいた。未来を生きる君たちを。

共鳴者が通う大学は過去、由緒正しき乙女が通う、女学校だった。今回のシナリオの怪異、“女生徒”はその頃に通っていた生徒だ。良妻賢母と大和撫子を目標にするその女学校は、時代の事もあり好きなことを好きなように学んだり、望む進路を目指したりは叶わなかった。

親が望むように、学校が望むように生きた櫻木遥は奨励される優等生にまでなった。しかし、本当の遥は良妻賢母ではなく、自立したキャリアウーマンになる将来を夢見ていた。しかし、両親は昔から厳しく、遥の望みを許さなかった。それでも諦めきれずなんとか説得した直後、入学祝いに、とくれた簪を学校で失くしてしまう。特別高価なものではなかったが、両親は激昂。これを理由に進路は閉ざされてしまった。

その後、良家に嫁ぎ天寿を全うしたが、若い頃の後悔と鬱憤は晴れることはなかった。その怨念は彼女を怪異へと変貌させ、大学となった女学校に棲みつくようになった。幸か不幸か、彼女が愛した図書室を住处として。時代が変化し、それぞれの想う道へ進めるようになった今、遥は学生を妬んでいた。羨ましい、妬ましい、そんな気持ちと共に、誰かに救って欲しいとも思っていた。そこで、NPC「ハルカ」を生み出し、それを使役することで学生を異空間に閉じ込めた。とはいえ、簪を見つけなければ、渡さなければあの真っ黒な怪異に取り込まれてしまう。そのため表立って言われないが、この大学には数名の行方不明者がいる。

彼女の望みは、簪を見つけること。赤い簪があれば、何処へだって行けると思っているから。

「ハルカ」と快く遊び、簪を見つけてくれる人を、ずっと待っていたのだ。



【シナリオ NPC】
ハルカ（櫻木遥）

▷ あとがき

この度はサイコロ倶楽部の部誌「Xi:vol.21」（サイコロン）をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。本誌がきっかけとなり、TRPG にご興味をお持ちいただけましたら幸いです。

本年は制作に取りかかるのが大変遅く、様々な面で苦勞することとなりました。改めてスケジュール管理の大切さを痛感しております。

無理のある進行に合わせてくれた部員一同に心より感謝申し上げます。限られた時間の中での制作ではありましたが、とても充実したセッションに仕上げることができ、ほんと胸をなで下ろしているところです。

最後に、毎年恒例となっています、『深淵 RPG』付属の「運命カード」から一枚引きまして、終わりの言葉とさせていただきます。

「大地こそ我が命。これこそが最も確かなものなり。」
青の牧人

部長 amaohi

▶ 奥付

編集◆amaohi、サイコロ倶楽部一同

表紙◆amaohi

発行年月日：2025 年 10 月 25 日

発行：サイコロ倶楽部

連絡先：跡見学園女子大学

新座キャンパス 学生会館

印刷会社：ちょ古っ都製本工房